

## 地域資源の保全管理

中山間地域

### 【地区概要】

1

- ・取組面積 86.4ha (畑)
- ・資源量 開水路 22km、農道 12.5km  
パイプライン 8.1km、ため池 1カ所
- ・主な構成員 農業者・非農業者
- ・交付金 約250.5万円(R5)  
農地維持支払172.8万円  
資源向上支払77.7万円

農地維持支払  
資源向上支払(共同)

うけんそんかんきょうほぜんかい かごしまけん おおしまぐん うけんそん

### 宇検村環境保全会 (鹿児島県大島郡宇検村)

- 本地区は、さとうきび、たんかんを中心に栽培し、パッションフルーツやマンゴー、カボチャ等も栽培している。高齢化が進む中、今後とも農業振興を図るためには、農地や農道・水路等の農業用排水施設、農村環境を地域共同活動により適切に保全管理することが必要である。
- 本会は、当初5組織に分かれていたことにより、各組織の会計等の事務処理が負担となっていた。そこで宇検村全体を一本化の組織にすることで事務処理の軽減や、各組織間での規約の統一化を図り、既存の5組織に新たに2集落が加わり、7集落を一本化とし、宇検村環境保全会が発足した。
- 本会は、農家及び非農家の住民と協力して、農道の草刈、農業用排水路等の泥上げ清掃活動等を行い維持管理を行っている。

### 活動開始前の状況や課題

- 高齢化や農家人口の減少により、農道や水路の管理が困難な状況にあった。
- イノシシ防護柵なども管理不足や経年劣化により破損が見受けられ、イノシシによる獣害も深刻化していた。
- 農道や排水路の問題は農家だけの問題との認識が強く、農家人口の減少や担い手不足に拍車をかけていた。



### 取組内容

- 集落の青年団などを中心に農道の草刈や用水路の泥上げなどを行った。
- 破損していたイノシシ防護柵についても農家を中心に修繕を行った。
- 農道や用水路などの保全是農家だけの問題でなく、地域全体の課題として、非農家も参加するように広く呼びかけた。



### 取組の効果

- 台風や大雨の災害後に点検を行い、異常がある箇所への作業を実施し、早急な対応が図られ、営農環境が守られている。
- 共同活動を行うことにより、構成員の農業用施設への保全活動に対する意識の高揚が図られている。
- 遊休農地発生防止のため農地へヒマワリ等の栽培を行うことにより、集落の景観・保全管理が維持されている。





付帯施設周辺の管理作業



排水路の清掃作業



側溝の清掃作業



農道の草刈作業

## きっかけ

- ・高齢化や担い手不足により農地周辺の環境維持の困難
- ・各集落の青年団活動が盛ん

### Step1 (~H18)

#### 宇検村環境保全会 発足前

- 高齢化が進み、農業用排水施設等の維持管理が困難になりつつあった。
- 台風や大雨等の災害時には、堆積した土砂等の影響により、水路の冠水や農業用水パイプライン等影響あった。

### Step2 (H19~R3)

#### 5集落で活動組織が発足

- H19より農地・水・環境保全向上対策事業に取り組む。
- 集落毎の5活動組織で活動を実施し、農業用施設や農道の維持管理、景観形成活動等を行う。

### Step3 (R4~)

#### 宇検村環境保全会 発足

- R4年度の再認定の際に各組織の事務負担の軽減などを目的に5組織を一本化した。
- 規約の統一化などにより活動賃金の考え方や活動した際の報告書の様式も一新。事務手続きを明瞭化させ、活動の促進も図ることが出来た。



新たに参加した集落での作業前点検



老人会による花の植栽

### 将来に向けて

- 今後も共同活動の継続実施により、地域資源の保全是、地域で取り組む意識の醸成を高めていきたい。
- 現在、組織に参加していない集落へも水土里サークル活動の周知を引き続き行い、活動への参画を促して更なる活性化を図っていきたい。

### 今後の展望

### Step5

#### 新たに2集落も活動へ参加

- 1組織としたことで新規集落も活動へ参加しやすくなった。
- 組織を新規で立ち上げる際の労力が軽減され、活動へ参加していない集落にも関心を持ってもらえるようになった。

### Step4

#### 組織を1本化したことで柔軟な活動が可能に

- 集落間での意見交換が活発になり、活動内容や活動に参加する人も増え活性化した。
- 集落の若者を活動へ巻き込むことにより、農業の魅力発信も行っている。
- 集落間での交付金の融通が可能になったことから重要度が高い施設に予算を重点配分することが可能になった。